

介護のなかま

2009年6月9日
【発行】生協労連
介護部会準備会事務局
NO. 24
電話：03-3408-0067
fax：03-3408-8955
メール：qyg03057@nifty.ne.jp

元気をもらった 労組を身近に感じた

生協労連第9回介護事業交流会に全国から131人つどい

5月16～17日の2日間、生協労連第9回介護事業交流会が愛知県豊橋市で開催され、現地からの参加45人を含め、全国から131人が参加。笑いあり、涙あり、そして真剣な眼差しで学び、語り合った二日間となりました。



あいさつするみかわ市
民生協の八木理事長

初日は、八木みかわ市民生協理事長のあいさつにつづき、総合人間研究所所長・わらじ医者の早川一光先生が参加者に「老い」とは、「介護とは」、「労組の役割」などを60年以上にわたる豊富な経験をもとにした講義からはじまりました。

「目が見えなくなるのはいやな物を見なくてもいいから」、「耳が聞こえなくなるのはいやな事を聴かなくても良いから」、「口は歯がなくてもツルとした物を飲み込みやすいようにするため」、「人間は生きてきたように老い、老いざまが生きざまを作っていくという事」、「人は上手な生き方、病み方、老い方、呆け方、別れ方がある。人間

が見て理解できる人、喜び、悲しみを分かち合う人になっていく必要がある」など、含蓄のある話がありました。



<講演する早川一光先生>

参加者からは、「介護とは病気を診るのではなく、人を診ることであることを再認識した」、「『老いる』と言うことは自然なことであり、無理に逆らってはいけない、というのは素直に受け入れることができました。地域に密着した医療、そして介護は今後ますます重要になってくると思います」などの感想が出されました。

それから翌日まで、①認知症を考える、②ターミナルケアを考える、③ケアする人のケアを考える、④どうなる、どうする介護保険、⑤介護・福祉労働者の組織化、⑥どんなデイ&ショート施設にしたいですか？、⑦しゃべり場、の7つのテーマで分科会を開催。日頃、仕事をしていく上で、もっと専門性を高めたいことや介護保険制度について考えていること、仕事上の悩みなどについて大いに学び、議論しました。



分科会参加者の声

①「認知症を考える」

病気の理解、タイプ別にきちんと聞く事が出来役立った。いろいろなケースを事例として取り上げ、日々の参考になりました。認知症の方の気持ち、理解を一番に考えて援助にいかしたいと思いました。

②「ターミナルケアを考える」

ターミナルという死と直結する重い問題ではあったが、本人の気持ち、家族の気持ち、ケアする人の気持ち全員が、その人と向き合っていないとうまくいかないものであるということが理解できた。信頼関係



参加者と早川夫婦

をつくるという当たり前のことが、やはり大事であることが思い知らされた。最後まで『人』として人生を全うできるよう今後のケアにいかしていきたい。

③「ケアする人のケアを考える」

通所施設、在宅事業所の職員がそれぞれ抱えている問題が発表され、興味深いものだった。コミュニケーションの取り方、時間の取り方など色々なお話がうかがえた。助言者の先生のお話がとても素晴らしくて、良い時間をいただきました。

④「どうなる、どうする介護保険」

介護報酬改定後について、各地域さまざまな苦労や取組があり大変参考になりました。

⑤「介護・福祉労働者の組織化」

どこも直行・直帰型の登録ヘルパーの組織化に苦労している。その理由はシフトが複雑で、労組について説明できる場と時間の

設定が大変。地道に継続的に拡大をし、活動を継続していくしかないが、そのためには労組側の体勢と覚悟が必要。以上のようなことがわかり、勉強になった。



⑥「どんなディ&ショート施設にしたいですか？」

どこも大変なんですよね。人出不足、時間外、人間関係。でも大変なんだという話の中でも、いいところもいっぱい見つけれました。是非、見学に行きたい、もっと話を聞きたいと思えるDSもあり、みなさんががんばっているんだなあと感じました。つらい苦しい暗い話だけでなく良かったと思います。

⑦「しゃべり場」

職場における人間関係についての悩みはどこも一緒に、仕事として割り切ることも大事という事。職種はそれぞれ違うが、苦労しているのは一緒に、その状況の中でみなさん頑張っている姿、話を聞いて非常に励みになりました。

- ◆昨年福祉事業に異動して、今回初めて参加いたしました。モチベーションが少し下がっていた時期での参加でしたが、参加して良かったです。次回はより多くのスタッフを参加させていきたいと思っています。ありがとうございました。
- ◆オプションのデイサービス見学は大変勉強になりました。やはり現場を見るのは具体的でわかりやすいです。職員の方の話も参考になりました。ありがとうございました。これからは労組を身近に感じて生きていきたいと思っています。
- ◆横のつながりができ、楽しい会でした。もっともっと現場の職員に労組に入ってもらい、皆さんのところのように自分たちで労働条件を改善しないといけないですね。

